

女性協 2008年度活動報告

はじめに

男女共同参画の実現があんしんの暮らしを支える大きな力となると考えさまざまな取り組みを進めてきました。生きにくさや暮らしの厳しさが広がる今、より生協らしさが求められています。

女性協では、豊かな暮らしや住みやすい地域づくりにつながる活動や意識を多くの人に広げていくために気付きの場づくりをして来ましたが、共同参画の視点を仕事や活動に取り込む点でみると、目立った変化をつくることができず、引き続き課題にしていかなくてはなりません。

(1) 運営委員会

①運営委員会開催

運営委員会を毎月開催し、会員生協に於ける共同参画の具体化を進めるために学習や交流を図っています。

②運営委員学習会（8月20日）

男女共同参画社会実現のための学びの拠点といわれる独立行政法人「国立女性教育会館」（嵐山町：埼玉県）を視察しました。特に、6月にオープンし、明治以降女性や女性団体・女性教育に関する全国史・資料を収集・展示するアーカイブセンターは大変興味深い施設でした。



③中央地連男女共同参画懇談会

中央地連が年3回開催する男女共同参画懇談会には、生協のほか企業や地域グループの先進事例の学習や、会員生協内の具体的な共同参画発表の場としての役割を持っています。そこに運営委員の力量アップと共有化を図るため正規メンバーだけではなく運営委員も参加をしています。

(2) 男女共同参画に関するアンケート調査

会員生協の到達点を把握し2009年度における取り組みの基礎資料とするためのアンケートを実施しました。

アンケートでは、2008年度に共同参画促進のために取り組んだことや不足していたと感ずること、そして2009年度に取り組む課題



として考えていることについて、会員生協の常勤役員に訊ねました。

その結果をふまえて2009年度の活動の方針に反映させたいと思います。

(3) JAぐんま女性組織協議会との交流 (11月17日)

JAはぐくみ「国府野菜本舗」を訪ね代表理事の真塩光枝さんからお話を伺いました。地元の野菜(白菜など)の加工や旬の野菜を使った「昔ながらの家庭の味」を食卓にと、手作りの惣菜を主にした直売所を女性だけで運営しています。また、ホームヘルパーの受け皿「すみれの会」は50支部が地域で活躍していることなど、精力的に取り組まれているたくさんの活動を学びました。



(4) 群馬県の審議会・検討委員会 JAぐんま女性組織協議会との交流

(11月17日)

群馬県農政審議会	林 かの子
群馬県薬事審議会	林 かの子
群馬県食品安全審議会	林 かの子
ぐんま「食と農」応援事業選考委員会	林 かの子
群馬県農地・水・環境保全向上対策第三者委員会	林 かの子

(5) 県連行事に積極的に参加

1) 消費者まつり (3月1日)

「あなたらしく・わたしらしく」をテーマにコーナーを作り、アンケートを実施し、117名が参加しました。「子どもの損害賠償」や「嫁との養子縁組」などを知らない人が半数近くに上りました。また「退職後は」の質問では趣味や自分らしく生きるという声が多かったようです。



2) フートピア21

フートピア21は、群馬県生協連・群馬県農協中央会・群馬県森林連・群馬県漁連で構成し消費者・生産者が森・水・地域環境・農の価値を認識し合い、より豊かな暮らしの実現と地域社会への貢献を進めることを目的として運営されています。



①第86回国際協同組合デー記念交流会（9月29日）

JA片品の「尾瀬わくわく体験郷（たいけんむら）」は、木の香りのする施設内で、群馬県産の小麦粉を使ったうどん・ピザ作りをしました。また、トマト生産農家を訪ね、交流と収穫体験を行いました。



②第16回群馬県収穫感謝祭

（11月11日～12日）

豊かな実りに感謝し生産者・消費者の交流を通して農業への理解を深めてもらおうと群馬県・JA群馬中央会など40団体で構成され毎年開催されています（今年はコープぐんまも参加）。県連女性協は、JAぐんま女性組織協議会に連帯して参加しています。



③食農教育教室（11月29日）

甘楽町の蒟蒻芋生産農家の畑で、親子で見学と芋ほり体験をした後、近くの体験施設「甘楽ふるさと館」に移り、生芋をすりおろした蒟蒻作りや県産そば粉を使った蕎麦打ちを体験しました。



④食農教育シンポジウム（2月15日）

「ニッポンの食料は 日本の大地から」－親子で学ぶぐんまの食－料理研究家浜内千波さんが、講演をしながら県産の食材を使ったオリジナル料理の実演と試食を行い、“野菜の力”などを訴えました。



（6）機関紙「風」の発行

「風」は編集委員会のもとで隔月定期発行し、女性協の活動や会員生協内の取り組み、他団体の参考になる活動などを載せて情報の共有をはかりました。

「後期高齢者医療制度とは」に続き10月号からは「お米を使ったレシピ」の連載が始まりました。



(7) 交流会・視察研修の実施

1) 視察研修 (9月13日) ユニセフハウスと しながわ水族館を見学

ユニセフってなんだろう？ユニセフ募金ってどのように使われているのかを学んでしようと開催しました。

ユニセフハウスの見学では、貧しい国の子どもたち(女の子)が、生活のために15キロの重い水を何回も運ぶという水瓶が。その水が不衛生で寄生虫が皮膚を破って出てきたこと。地雷で足を失った子どもの義足を目のあたりにして、ユニセフハウスの活動の必要性を強く感じました。しながわ水族館では、「アシカショー」など楽しみました。

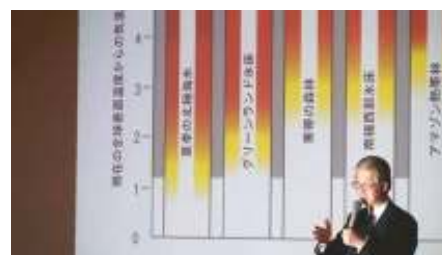


2) 組合員交流会 (4月4日)

「地球温暖化の危機とは？どうしたら解決できるのか」

講師 山本良一氏(東京大学生産技術研究所教授)

30年後の地球環境を考えると、直ちに行動を起こさなければ環境は元に戻ることが出来ないほど打撃を受けることや、どのようにしたら地球環境を守ることが出来るのか？などをパワーポイントを使い解説していただきました。たくさんの方から「理解できた」と感想をもらいました。



2009年度活動方針

はじめに

私たちの暮らしは、非正規労働者の増加により大きな格差が生じていました。その上さらに、金融市場の混乱で世界同時不況に陥り、雇用調整や採用抑制など働く場の確保が困難になっています。収入の減少も進み、生活や地域に大きな影響を与えています。

目指すべき“その人らしく生きられる社会”とは逆行し、社会保障などへの不安も大きくなっています。

女性協では、生協が地域に根ざす市民組織として果たす役割を考え、誰もが安心して暮らせる豊かな社会につながるよう、学習や交流、情報の提供などに取り組みます。

1、運営委員の役割発揮の課題——運営委員会の充実など

- 運営委員会において男女共同参画や先進事例を学び、会員生協における取り組みの具体化につなげます。
- 日生協(中央地連)の共同参画懇談会や他団体・行政の企画に参加し力量の向上をはかります。
- 会員生協の課題や進捗を交流し、共有化をはかります。



2、会員生協の取り組みを広げ、発展させる課題

- 会員生協には、男女共同参画課題を遂行するための担当者配置や進捗管理の取り組みを要請していきます。
- 男女とも能力を発揮できる働きやすい職場につながるよう具体的事例の紹介や情報を提供します。
- 働き方の見直しなど学習の場や課題をまとめるアンケートなどの取り組みを考え

**男性職員が育児休業を取得（コープぐんま）
生協から「育児休業支援金」が贈呈されました**

コープぐんま本店センターの運営担当石川啓生（あきひろ）さんは、12月20日から1月12日まで育児休業を取得しました。石川さんの育児休業取得の体験談をご紹介します。

「希望、私が育児休業を取らせていただく前に、育児の両立というものと、営業と育児の両立と仕事というのについて相談がありました。少し前までは、男性が（仕事をしているがために）あまり働くことがない営業、あまり働けない営業、これを営業にしている主婦というものがありました。男性は育児をせずに仕事というのが当たり前でしたが、産後や出産後こそ仕事を復帰しているという女性が増えている理由、男性が育児に関わりたいと希望するケースが多くなると思います。希望の休業を通して、産後や復帰することによって「育児と仕事を両立している女性の偉大さ」を再認識されました。

それと、共働き夫婦の場合、希望によっては育児休業が取得しなくても、どうしてもできないことも多くなってしまいますが、私の育児休業中でも再就職のサポートが、平井とのコミュニケーションを多く取ることで、業務の仕方が変わったのほどもありました。」

コープぐんまでは体験談を「育児休業支援金」を贈呈しています。



男性職員の育児休業取得を「風」で紹介
(コープぐんま)

ます。

3、県行政とのつながりで積極的に発言していく課題

- 群馬県の審議会など行政とのつながりを継続し、生協の事業と活動に裏付けられた発言をしていきます。
- 共同(平等)参画社会の実現を進めるための発言にも取り組みます。

4、他団体、とりわけJAぐんま女性組織協議会との交流の課題

- 他団体との交流を深め共同の輪を広げていきます。
- JAぐんま女性組織協議会との交流を発展させます。フートピア21などの交流の他、共同参画の取り組みや課題の交流を進めます。



5、県連行事等への参加をすすめる課題

- 県連行事には積極的に参加していきます。
- 運営委員会から県連行事の実行委員を推薦します。
- 医療や食の安全、消費者運動その他行事にも参加していきます。

6、機関紙「風」を発行する課題

- 機関紙「風」の発行を引き続き行います。
- 会員生協の取り組みや他団体の活動、組合員の声など活動の参考になる内容を取り入れ、情報の共有化をはかります。
- 他生協、県連、連合会などの情報誌を研究するなど編集委員会の充実をはかります。



7、交流会、学習会、研修会など組合員・役職員といっしょに学び交流する課題

- 男女共同参画に関する気づきや学びの場づくり、情報提供を継続的にすすめます。
- 男女共同参画の視点を大事にした組合員活動の交流や地域社会の課題など、学びあいの場をつくり、地域社会に貢献できるリーダー育成を応援します。

